

一、非体験者による創作特攻文学

継承のメディアとしての文学

体験者の高齢化にともない直接の証言を得ることが難しくなり、いずれは継承の担い手が非体験者ばかりになる。このポスト体験時代において戦争体験がどう継承されるかは、戦後七五年を迎える日本ではとくに切実な問題であり、語り部育成や映像制作などさまざまな方法が試みられている。特攻の体験・歴史はいかに継承されるのであろうか。この問いについて、本論では特攻を主題として創作された文学作品、とりわけ非体験者による創作特攻文学の分析を通じて考察したい。

特攻体験の継承のメディアとして、とくに文学に着目する方法的な意義はふたつある。

ひとつは、人生の割り切れなさや複雑に矛盾した感情の陰影を、背景や文脈の情報とセットで、そのまま言語表現として保存することができる点である。本論でも触れるが、特攻体験者は戦後ながら、自分の経験や死んだ仲間を全否定するかのような戦後的価値観の前に、沈黙を強いられてきた。その抑圧の構図はいまでも変わらない。こうした事情を織り込みながら表現できる手段は、まず文学なのだ。そこから映画化や舞台化を経て広く知られることはあるが、文学とは何よりも商業的な採算や世間の思惑といった「現在」のしがらみから距離をとりうるメディアなのである。

もうひとつは、危険な力を言葉で包摂することができる点である。前述の抑圧の構図にもかかわらず、特攻の歴史が人びとの感情に訴える力はきわめて強い（だからこそ抑圧されるという面もある）。この感化力は時代とともに「風化」するどころか、むしろ「純化」しているように見える。それは、遺族や戦友会による慰霊顕彰的な受容とも、学校や報道を通じた平和教育的な受容とも異なる、特攻の自己啓発的な受容の強まりにもうかがえる（井上、二〇一九^a）。だとすれば、考えるべき継承とは、記憶の風化を防ぐた

めだけではなく、放置すれば危険な力となりうる感情を、適切に包摂するためでもなければならぬ。

これに関連して、私は以前、次のように書いたことがある。

ただし、その妖しい力を研ぎ澄まし、増幅させ、かつ暴発しないよう飼いならし、生きたまま封じ込めておく場所はある。文学である。それも戦争を知らない世代が制作する、フイクションとしての特攻文学だ。

（井上、二〇一九^b、三九頁、傍点原文）

すなわち、特攻体験者の自己反省を越えて、特攻関連の資料や証言をもとに、非体験者のフィルターを通して再構成された、創作特攻文学である。「風化」への抵抗だけでなく、「純化」への誘惑をどのように作品に昇華するのか。さらに作品や作家を単体で分析するのではなく、創作特攻文学というジャンルを、集団的な営みとしてお互いに関連付けることで、文学的想像力が描かざるをえなかったもの、描きたいと欲望したものの変容を捉えることができるだろう。

特攻体験は、本来きわめて個別的なものである。だからたとえ文学的想像力をもってしても、特定の文学作品が、特攻体験の全体を「代表」することはありえない。しかしながら、創作特攻文学というジャンルが、集団的な営みとして試みているのは、特攻体験者と戦後社会を和解させる、あるいは私たちの社会が特攻の歴史を包摂するための条件を探ることではないか——本論ではそのような観点から作品群に向き合っていく。

特攻文学の四類型

本論が対象とするのは、非体験者による創作特攻文学である。この作品群を特攻文学全体のなかに位置

表1 特攻文学の四類型と作品例

	ノンフィクション	フィクション
体験者 (戦中世代)	・吉田満『戦艦大和ノ最期』 ・島尾敏雄『出発は遂に訪れず』 ・高木俊朗『陸軍特別攻撃隊』 ・神坂次郎『今日われ生きてあり』	・阿川弘之『雲の墓標』 ・城山三郎『一步の距離』 ・三島由紀夫『英霊の聲』
非体験者	・辺見じゅん『決定版 男たちの大和』 ・赤羽礼子・石井宏『ホテル帰る』 ・水口文乃『知覧からの手紙』	非体験者による 創作特攻文学

づけるために、〈体験者―非体験者〉と〈ノンフィクション―フィクション〉というふたつの軸による四類型を考えてみる（表1）。

この場合の体験者とは、もともと狭い意味では特攻作戦の出撃経験のある者を指し、例えば戦艦大和副電測士として沖縄特攻作戦に参加した吉田満（一九三〇～一九七九）が該当する。その次には、特攻隊員として待機中または特攻要員として訓練中に終戦を迎えた者であり、小型ボートで体当たりする震洋部隊の隊長だった島尾敏雄（一九一七～一九八六）、海軍特別幹部練習生として水中特攻・伏龍部隊に配属された城山三郎（一九二七～二〇〇七）などが該当する。

さらに特攻を近くで見聞きし身近に感じる立場にいた者も広義の体験者（戦中世代）と捉えるならば、海軍士官の阿川弘之（一九二〇～二〇一五）や陸軍航空通信兵の神坂次郎（一九二七～）から、もつと広げて陸軍報道班員の高木俊朗（一九〇八～一九九八）や陸軍指定食堂の娘で三角兵舎での奉仕経験をもつ赤羽礼子（一九三〇～二〇〇五）も含めてよいかもしれない。高木や赤羽は、家族以上に近くで特攻隊員の日常に接する立場にあったからだ。このように、特攻体験との関係性にはグラデーションがあるため明確な線引きは難しい。

また、ノンフィクションが自身の体験や史実の記録であるのに対して、フィクションは架空の人物たちの物語である。さしあたりそのような区別したとしても、体験者による特攻文学は、フィクシ

ョンの形式をとっていても自身のリアルな体験がベースにあるために、実際にはノンフィクションとの明確な線引きが難しい。これは戦争文学における小説と「事実」の線引き問題と同じである（川村・成田他、二〇〇八）。

この二重の線引き問題は、特攻体験者が自身の体験を記録した作品――表1の左上の象限（体験者×ノンフィクション）――を基準に、そこからの距離によって分類を試みたときに陥る困難である。それに対して、本論が注目するのは、非体験者による創作特攻文学である。これは表1の右下の象限（非体験者×フィクション）に位置づけられる。これを基準として作品群を同定することは、前者に比べるとはるかに容易である。タイムスリップや入れ替わりなどのSF的な設定から明らかな場合もあるが、ほとんどの作品は、「フィクションである」旨の但し書きを記すか、参考文献リストを巻末に付けるか、あとがきで執筆の経緯を述べるか、いずれかが施されているので判断に迷う余地はない。非体験者かどうかについては年齢と経歴から判断することができる。たとえ戦後生まれでも、家族・親戚や身近な知人に特攻隊員がいた可能性は否定できないが、これだけなら非体験者としてよいだろう。

今回取り上げる創作特攻文学としては、特攻を主題としたフィクションの小説または戯曲で単行本化されたものに限定する。映画やドラマ、舞台等の脚本の小説化（ノベライズ）も含む。特攻（体験）が、物語の進行上重要な鍵を握っていたとしても、「主題」とはいいがたい作品群はたくさんあるが今回は割愛した^①。また特攻を主題としていても、雑誌や短編集の掲載作品、電子媒体やオンライン小説、オンデマンド印刷、児童書、漫画についても割愛した^②。こうして収集されたのが、表2に掲げる二二作品である。

ノンフィクション版とそれを小説化したフィクション版の両方が刊行されている場合もある。例えば、本論でも取り上げる横山秀夫『出口のない海』（二〇〇四）^③や辺見じゅん『小説 男たちの大和』（二〇〇五）^④である。これらは「事実がどう改変されたか」という否定的な意味ではなく、「事実を素材に

表2 非体験者による創作特攻文学 作品一覧

番号	タイトル	出版社	刊行年	著者	生年 (年齢)	体験者の 回顧	今時の 若者	時間 移動		概 要	文庫、映画、TV ドラマ
1	月光の夏	汐文社	1993	毛利恒之	1933(60)	●				出撃前に国民学校でピアノ演奏した陸軍特攻隊員の話をつっかけに、当事者の消息を尋ねて、生き残った関係者を探す。	・映画 1993 の小説化・文庫 1995、 ドラマ CD2003、絵本 2004
2	THE WINDS OF GOD―零のかなたへ	角川書店	1995	今井雅之	1961(34)		●	●		漫才コンビが過去（海軍鹿屋基地）にタイムスリップして特攻隊員に。	・舞台 1988- の小説化・映画 1995、 文庫 2001、TV2005
3	君を忘れない―FLY BOYS, FLY!	角川書店	1995	長谷川康夫	1953(42)					海軍鹿屋基地で出会った7人の仲間たちの友情を「今どきの若者」に寄せて描く。	・映画 1995 の小説化
4	ホタル	角川書店	2001	竹山洋著＋製作委員会編	1946(45)	●	○			陸軍特攻隊の生き残り。特攻死した朝鮮半島出身の戦友の許婚と結婚して生きてきたが、彼の遺言を遺族に伝えるべく。	・映画 2001 の小説化・文庫 2002
5	月光の海	講談社	2001	毛利恒之	1933(68)	●				陸軍特攻隊の生き残り。出撃後に漂着した沖縄の孤島を訪ね、当時の関係者や血縁者と出会う。	(文庫書き下ろし)
6	青天の星	光人社	2003	毛利恒之	1933(70)	○	○			航空機事故をつっかけに、現代の副操縦士の男性とCAの女性が、帝都防空の歴史を知る。	—
7	二十歳の変奏曲	有楽出版社	2004	稲葉稔	1955(49)	○	○			祖母が孫（大学生男子）に語る恋人の話。大学生だった恋人は、学徒出陣で陸軍特操を志願、特攻隊員として出撃した。	・文庫 2010
8	出口のない海	講談社	2004	横山秀夫	1957(47)	●				学生野球の投手が、学徒出陣で海軍予備学生を志願、「回天」搭乗員に。	・漫画 1995 = 2015 を小説化した 原作 1996 の全面改稿・映画 2006、 文庫 2006、漫画 2006
9	僕たちの戦争	双葉社	2004	萩原浩	1956(48)		●	●		フリーター男子と戦時中の予科練出身飛行練習生がタイムスリップして入れ替わり、フリーターは「回天」搭乗員に。	・TV2006、文庫 2006、ラ ジ オ 2007
10	小説 男たちの大和	角川春樹事務所	2005	辺見じゅん	1939(66)	●	○			戦艦大和乗組員の生き残りの養女が、養父の戦友とともに漁船で大和沈没地点を目指す。	・原作 1983=1995=2004・映画 2005 の小説化・文庫 2006
11	永遠の0	太田出版	2006	百田尚樹	1956(50)	●	●			司法浪人男子とライター姉の姉が、零戦搭乗員として特攻出撃した実の祖父について、生き残った関係者から証言を集める。	・文庫 2009、漫画 2010-2012、映画 2013、TV2015
12	流れる雲よ（戯曲）	創芸社	2006	草部文子	1957(49)			●		海軍鹿屋基地で出撃を控える特攻隊員が、ラジオから届いた未来の電波で、間もなく「終戦」を迎えることを知る。「流れる雲よ」は戯曲集の題名で、作品名は「飛行機雲」。	・ラジオ 2000 の舞台化
13	群青に沈め―僕たちの特攻	角川書店	2008	熊谷達也	1958(50)					予科練から「伏龍隊」配属されてからの訓練の日々。	・文庫 2011
14	伏龍―海底の少年特攻兵	河出書房新社	2010	阿井文瓶	1941(69)	●				海兵団から「伏龍隊」配属されてからの訓練の日々。生き残りに自伝執筆を依頼された現代のライターが再構成する。	・文庫 2012
15	帰国（戯曲）	日本経済新聞出版社	2010	倉本聰	1935(75)			○		終戦から65年後の東京駅に英霊を乗せた列車が到着する。	・棟田博の小説 1955 の翻案・舞台 2010-2011、TV2010
16	翼に息吹を	角川書店	2011	熊谷達也	1958(53)					大学工学部から学徒出陣、知覧分廠に配属されて、整備班班長として特攻機の整備に携わる。	・文庫 2014
17	昨日の蒼空、明日の銀翼	講談社	2012	管野ユウキ	1977(35)		●	●		高3男子が過去にタイムスリップして飛行練習生となり、特攻出撃の最中に、再び現代（1年後）に戻ってくる。	—
18	神風ニート特攻隊	地湧社	2015	荒川祐二	1986(29)		●	●		生きる希望を失ったニート男子が過去（陸軍知覧基地）にタイムスリップ、記者見習として基地に滞在して、特攻隊員と交流する。	—
19	あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。	スターツ出版	2016	汐見夏衛	不詳		●	●		反抗期の中2女子が過去（知覧）にタイムスリップ、陸軍指定食堂を手伝いながら、特攻隊員と交流、学徒兵に恋する。	・ケータイ小説の文庫化
20	青空に飛ぶ	講談社	2017	鴻上尚史	1958(59)	○	●			いじめを苦に自殺を考える中2男子が、北海道旅行中に訪れた病院で、入院中の特攻隊の生き残り（佐々木友次）と出会う。高木俊朗『陸軍特別攻撃隊』も同時に読みすすめる。	・新書 2017 の小説化・文庫 2019
21	赤い白球	双葉社	2019	神家正成	1969(50)	○				ともに甲子園を目指した日本人と朝鮮人の親友同士が、陸軍予科士官学校（→エリート士官）と陸軍少年飛行兵（→戦闘機搭乗員）にわかれ、フィリピン、知覧で再会する。	—